

血圧計の椅子が高さ調整可能になりました



この度、患者様から頂きました意見箱のご意見により、新南館に設置しています血圧計の椅子を、高さ調整可能な椅子に変更させていただきました。

病院職員も気付かないようなご指摘、大変ありがとうございました。



編集後記

秋も深まり、少し肌寒い季節となりました。紅葉狩りなど行楽シーズンを楽しみたいところですが、新型コロナウイルスの存在は無視できません。食欲の秋、読書の秋など屋内で楽しめる秋はもちろん、手洗いうがい・3密回避で感染対策を行い、多くの秋を感じたいと思います。



特定医療法人 誠仁会
大久保病院

〒674-0051 明石市大久保町大窪2095-1
tel. (078) 935-2563
<http://www.seiinkai.or.jp/okubo/index.html>



交通機関をご利用の方

- JR山陽本線「大久保」駅下車、北へ徒歩15分
- 「大久保」駅北口より神姫バス
②のりば 19「山手台」行き
③のりば 12「西神中央」駅、「上岩岡」、「五百蔵」行き「山手小学校前」バス停下車、東へ徒歩5分

車をご利用の方

- 第二神明道路「大久保IC」より、大久保方面へ約10分

特定医療法人誠仁会

大久保病院だより

No. 43
令和3年
11月15日

編集・発行 | 特定医療法人誠仁会 大久保病院 地域医療連携室 ● 明石市大久保町大窪2095-1 TEL078(935)2680 FAX078(935)2684

第12回 大久保地区病診連携の会を 開催いたしました

オンライン開催

外科医長 山下 英孝



令和3年9月18日（土）第12回大久保地区病診連携の会が開催されました。今回も前回と同様、新型コロナウイルス感染症の渦中により、Web講演会という形式での開催となりました。今回は39名の医師・看護師・医療スタッフの皆様方に御参加いただき、このような形式で無事開催出来たことは、ひとえに明石市医師会のご協力やご参加いただきました諸先生方、また共催いただきました方々のおかげと、感謝している次第でございます。

今回は緩和ケアをテーマとして、基調講演「当院における緩和ケア病棟の取り組み」と題しまして、私（大久保病院 外科医師 山下英孝）が当院における緩和ケア病棟での現状と取り組み、また、地域医療の役割についてお話をさせていただきました。

特別講演では「地域に根付いた緩和ケア病棟の役割」と題しまして神戸大学医学部附属病院 緩和支援治療科 特命教授 木澤義之先生にご講演いただき、緩和治療の成り立ちから、明石市における緩和治療の現状と課題など、大変幅の広い講演で、今後の緩和治療において大変役立つお話をさせていただきました。

今回もWeb講演での開催ではありましたが、本当に多数の方々にご参加いただきまして誠にありがとうございました。本講演会が、諸先生方の今後の診療にお役に立てただければ、幸いと考えている所存でございます。また、明石・大久保地区の地域医療に貢献できるよう頑張ってまいりますので、今後とも宜しくお願いいたします。



神戸大学医学部附属病院 緩和支援治療科
特命教授 木澤 義之先生



西明石クリニック 院長
伊達 昌孝先生



大西メディカルクリニック 院長
大西 奉文先生



大久保病院 院長 山村 誠

新型コロナウイルス第6波が到来することを見据えた感染対策メッセージ

院内感染対策委員会

コロナウイルスは、新しい感染症で、まだすべてのことが完全に分かっていません。

現在分かっていることから感染対策についてお知らせいたします。

コロナウイルスは元々「風邪」や「SARS（重症急性呼吸器症候群）」のウイルスで、ヒトに感染を起こすウイルスは6種類が知られていましたが、今回7種類目が発見されました。

コロナウイルスは、粘膜から侵入し、体の中で増殖し発症すると言われ、3つの感染パターンから感染をさけることができます。「①飛沫感染」「②接触感染」「③マイクロ飛沫による感染」です。それぞれの感染パターンに応じて対策をする必要があります。

①飛沫感染対策：咳のある人は必ずマスクをする。

また自分もマスクを着けて防御する。

②接触感染対策：不用意に目や口を触らず、頻回な手洗い・手の消毒を行う。

③マイクロ飛沫感染対策：密閉された空間は危険です。マイクロ飛沫は、飛沫感染よりも広範囲に感染を起こします。換気をしてマイクロ飛沫を吹き飛ばしましょう。

新型コロナウイルスを正しく恐れ、上手に付き合うことが重要です。



もし、新型コロナウイルスに感染してしまった場合の治療ですが、軽症の場合は経過観察のみで自然に軽快することが多く、必要な場合に解熱剤などの

対症療法を行います。呼吸不全を伴う場合は、酸素投与や抗ウイルス薬、ステロイド薬（炎症を抑える薬）、免疫調整薬、中和抗体薬の投与を行います。改善しない場合には人工呼吸器等による集中治療を行うことがあります。こうした治療法の確立もあり、第5波では死亡の割合は低くなっています。

発熱や咳などの症状が出たら、まずは医療機関に相談してください。当院では、発熱外来を午後に行っています。また、コロナの感染が不安な時は、あかし保健所のコロナ相談ダイヤルへ相談してください。

当院では、皆様に安心・安全な医療を提供できるように、これまで以上に徹底した感染対策を行っています。どうぞ安心してご来院ください。

新任医師紹介

救急科 佐賀 広



はじめまして。9月に着任しました佐賀です。

私は、平成13年に山口大学を卒業し、大阪大学の医局に入職しました。大学病院勤務からスタートして、大阪市内の救命救急センターなどで脳外科チームの一員として20代を過ごしました。30代に入ってから救急医として、30代後半からは脳外科医として勤務を行い現在に至っております。

コロナ禍にある今、救急医療は全国的に社会問題となっております。適材適所という考え方もありますが、地元地域に貢献することが最も大切であると考え

ます。専門は頭部外傷と脳卒中ですが、出来るだけ全般に対応できるよう努めて参りますので、宜しくお願いいたします。

最後に、グルメは私の趣味の一つです。地元の良いお店の情報をお持ちの方は、是非お教えくださいますよう宜しくお願いいたします。

職種紹介

job description

クラーク

きめ細かな対応を心がけて



医療を取り巻く社会では、タスクシフトやタスクシェアが進められています。これは働き方改革のひとつであり、医師や看護師その他専門職の従来の業務を他の人に移譲できるものは委譲していくということです。そうすることで専門職の本来の仕事を行うことができる、医師、看護師の業務の負担を軽減することができる、そうすれば患者の皆様に対してもっときめ細かな対応ができるという発想のもと進められてきたものです。

私たち大久保病院でも、2010年より医師や看護師の事務代行業務を行うクラークとして採用を開始いたしました。

医師の指示のもと、医師に代わって文章管理や事務代行を行う医師事務作業補助者は11名、主に外来診療

に同席し代行業務を行っています。そのため医師の指示内容を聞き漏らさないように、そして何よりもミスのないように神経を使いながら勤務しています。

この仕事をするには、専門的研修および試験にて合格認定を受けることで初めて仕事をする事ができます。

また、看護師の事務代行業務を行う外来・病棟クラークが20名勤務しています。外来では医師診察介助として診察室への呼び込みや書類の受け渡し、次回診察等の説明を行っています。病棟では書類の管理や入院患者への病棟案内や説明、入退院に関連する事務的作業を看護師に代わって行っています。

大久保病院の業務を担う一スタッフとして、どうぞお気軽にお声掛けください。

緩和ケア病棟「オンライン面会」のご案内

少しでもご不安を軽減できるように

緩和ケア病棟（2階西病棟）では、患者様・ご家族様のご不安を少しでも軽減できるよう、電子機器を用いた「オンライン面会」のサービスを開始しています。

緩和ケア病棟「オンライン面会」

- ・入院されている方のご家族様のみ
- ・3日前までの予約制（先着順）
- ・1回の面会時間は30分以内
- ・原則週1回
- ・平日10：30～16：00（最終予約15：00）
- ・病状確認や連絡用には使用不可
- ・ご家族がお持ちの端末（スマートフォン等）への設定（LINE）が必要
- ・設定いただくと、ご自宅等からのオンライン面会が可能



■予約受付電話 tel.(078)935-2846（2階西病棟直通）

■予約受付時間 9：00～12：00

※現在は各病棟の面会は緩和されておりますので、詳細は病棟にてご確認ください。